

ASC認証とSDGs



水産養殖管理協議会（ASC）は、国連の17の持続可能な開発目標（SDGs）に含まれる169のSDGsターゲットにASC認証がどの程度、直接的あるいは間接的に貢献しているのか、今回初となる評価を完了しました。このプロジェクトは、責任ある水産養殖を革新、先導するために、ASCが行っている複数の取り組みの一つです。

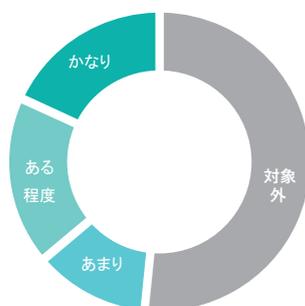
ブルー・フード・パートナーシップのレポート「持続可能な水産養殖への道」は、責任ある水産養殖の役割がSDGsに貢献する潜在的な可能性を明確に示しています。ASCが評価を行うことによって、検証可能かつ透明性の高い水産養殖認証が如何に、SDGsパフォーマンス項目達成の信認ある公表に貢献し得るかを、間接的に実証することが可能になります。

基準や保証を含むASC認証がSDGsにどのように対応しているかを分析するための方法論が開発され、その結果、SDGsの各目標がASC認証の活動対象であるかが判断され、ASC認証を取得した養殖場がどの程度のパフォーマンスを発揮しているかが評価されます。定量的な調査結果は、色分けされた評価システムで報告されています。

主な調査結果

SDGsの169の目標のうち半分（49%）が水産養殖業の活動範囲の対象と認識されており、したがってASCの活動もその範囲内と考えられます。ASC認証は、これらの目標の80%以上を「ある程度」または「かなり」扱っており、「かなり」が40.2%、「ある程度」が41.5%、「あまり」が18.3%となっています。

SDGsの169のターゲットに対するASCの全体的な貢献度



49%のターゲットが「活動範囲内」であり、そのうち80%以上が「かなり」または「ある程度」対応されています。

この活動範囲に含まれるSDGs目標は17の持続可能な開発目標のすべてに関連しています。ということは、SDGs17項目すべてにASC認証が取り組んでいることとなりますが、関与度合いは様々で、SDGs目標別に見ると16%から75%の間となります。

ASCが特に強力かつ実証的な方法で貢献しているのは、次のSDGsです。SDGs目標2（飢餓をゼロに）、SDGs目標6（安全な水とトイレを世界中に）、SDGs目標12（つくる責任つかう責任）、SDGs目標14（海の豊かさを守ろう）、SDGs目標15（陸の豊かさを守ろう）、SDGs目標16（平和と公正をすべての人に）、SDGs目標17（パートナーシップで目標を達成しよう）です。

ASC認証はまた、SDGs目標1（貧困をなくそう）、SDGs目標8（働きがいも経済成長も）、SDGs目標10（人や国の不平等をなくそう）、SDGs目標13（気候変動に具体的な対策を）に関連する目標とも、深く連携しています。

SDG別に見るASC平均貢献度

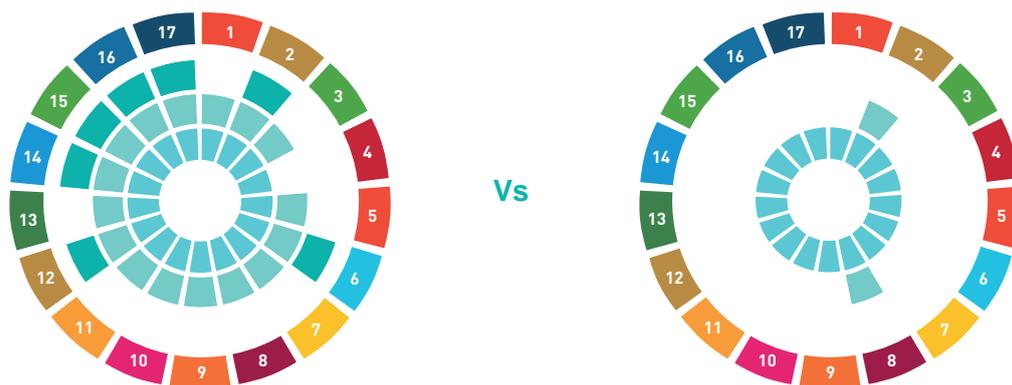


ASCはSDGs全項目に取り組んでいる

● あまり ● ある程度 ● かなり

ASCは分析対象を拡張し、「一般的な」水産養殖事業による「検証不可能」かつ「不透明な」なSDGsターゲットの貢献と、ASC認証の養殖事業によるSDGsターゲットへの貢献を、俯瞰的に比較しました。その結果、水産養殖業はSDGsに大きく貢献することができ、また貢献できるにもかかわらず、独立した透明性のある保証を提供しなければ、特定のSDGs目標に対し積極的に貢献しているという主張が、信憑性のある方法で実証されないことがわかりました。これは機会損失です。SDGsへの貢献を透明性をもって実証できない非認証養殖業と、ASCがいかに実践をもとにSDGsへ貢献しているか、そのギャップを現したのが次の図になります。

信憑性のある主張： 水産養殖領域におけるSDGsへの実践的貢献の違い



ASCで検証され、透明性のあるSDGsパフォーマンス

未検証、不透明なSDGsパフォーマンス

● あまり ● ある程度 ● かなり

ギャップ分析（不透明な認証制度とASC認証の比較）により、ISEAL正会員のような信頼できる持続可能性の基準（VSS）が、SDGsとその目標の達成を実証に基づき、透明性をもって、独立して保証できる分野が明らかになっています。認証された事業内容には付加価値が付き、当該事業から水産養殖製品を調達する業者達に向けて事業内容を実証することが可能になります。

- SDGs目標に則してSDGs達成度を評価することで、保証に基づくSDGsパフォーマンスの指標を、機関・政府・金融・企業・産業、その他の利害関係者が、自らの政策や評価作業に組み込み、水産養殖分野における知見を増やすことに役立ちます。

- 第三者機関による定量的かつ透明性のある認証を通じてグリーンウォッシングのリスクを回避することができます。
- 水産養殖業のみにとどまらず、SDGsが提案した評価方法は、ホライズン2030に向けたSDGsとその目標に対するあらゆるセクターや産業の貢献をも、測定し比較するための道筋を提供しています。
- ASCは、養殖業者やその他の産業が、関連するすべてのSDGs目標の達成に向けた詳細で実証された進捗をマップングし、客観的に数値化すること、そして、すべての利害関係者の利益のためにそのような評価を公表することを奨励します。

SDGsとSDGs目標のレベルに関する方法論と評価を含む完全な報告書は、2022年秋に発行される予定です。ASCは、この作業を定期的に更新/改訂する意向です。



The Road to Sustainable Aquaculture

ブルーフード・パートナーシップのレポート「持続可能な水産養殖への道」

